松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第 17 回）開催概要

日　時	令和 7 年 10 月 29 日（水）　14：00～16：00
場　所	松戸市役所　新館５階　市民サロン
出席者	会田直樹、小川康博、影山貴大、坂野喜隆、鈴木茂樹、鈴木大輔、谷龍樹、成田正幸、水戸美津子、伊東朱美（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課

１ 開会（委員自己紹介）

２ 市からの報告

⑴　**松戸市総合計画の中間見直しについて**

⑵　**松戸市総合計画に掲げる指標の実績値・達成状況の推移**

⑶　**地方創生 SDGs 産学官民連携推進事業について**

３ 意見交換

○ 出席者意見

●数値目標の№２０の「あなたにとって松戸市が住みやすいまちですか」という設問について、74.8％が住みやすい旨の回答をしているが、これは何について住みやすいと感じているのか分析してみてもよいのかなと思いました。
また、21世紀の森と広場の来場者数について、令和６年度の来場者数が前年と比べて４万人ほど減っていることについては、気候が関連していることが考えられているとのことなので、今年の夏場も厳しい暑さだったことから、令和７年度の来場者数にも影響が出るかもしれないと思いました。

●まつどDEつながるステーションについて、地域のコミュニケーションをつなぐことを各地域で行っているのは良い取り組みだと思います。全地区に設置まで、あともう少しとのことなので進めてもらいたいです。
また、同じことをしているだけでは参加者も飽きてしまう中で、どう変化させていくか、ということについては難しいことではありますが、何か協力していければと思います。

●日本中の安心安全についてまとめた番組が全部で３７０本ほどあるのですが、例えば、これを町会と共有し議論していただくことで、防災・防犯に対する意識が挙がるのではないかと思います。近隣市から大阪などの遠方の自治体もあり、大変参考になると思うので、松戸市と連携を取れたらいいなと思っています。

●数値目標・KPIを見ますと、「住みやすい」或いは「将来住みたい」といった部分の数字については、上下はありますけれども、ある程度高い状態で推移しているのかなと感じます。
このことは、市の担当の皆さんがご努力されている結果として評価されていると思いますし、市民の皆様が将来の松戸市の姿をどう想像しているかというものと考えると、その期待の表れですとか可能性を感じているといったことがいえるのではないかなと思いました。

●現在は人口が50万人を突破している状況ではありますが、全国的な流れの中でいずれは少子化等の影響で減少局面を迎えることが考えられます。
その時に備え、何が必要かと考えると、やはり行財政に関する改革を今から着実に行っていく姿勢が重要だと思います。
例えば、水道料金や国民健康保険、公共施設の老朽化への対応や、市特有のところでは病院や市庁舎といった困難な課題が多い中で、市民の皆様に丁寧に説明し、ご理解と協力を得ていくことが求められているのかなと感じました。

●総合計画の中間見直しについて、新たにスポーツについて着目され、明記をすることで進めているとのことですが、県の総合計画についてもスポーツについて当然入っておりまして、例えばスポーツツーリズムの推進など協力し合って進めていければと思います。

●人口50万人を維持していく方向性となっていますが、少子化等で人口が減っていくことが見込まれる中で、その地域の人たちがどう豊かに暮らしているか、ということが凄く大事だと思います。
地域づくりは課題解決よりも主体形成が大事だと言われている中で、「住み続けたい」といった少し受動的な指標より、市への愛着といった能動的なものを考えてみても良いかもしれない。

●市の経済循環率を考えると他市に支出が流れてしまっている割合が3割ほどあるので、財源が減る中でも、地産地消のように地域で使うものを地域で生み出すような動きがあると、財源確保をしつつ人口が減っても維持がしやすくなるのではないかと思います。

●数値目標や KPI の中で外国人材については無かったのですが、現在の松戸市に住む外国人数を考えると、いかに外国人の人材を雇用できる環境を作るかが重要になってくると思います。
大人数を一気に雇用できる企業より、一人二人でいいので凄く多様な職種が用意されている町に人が集うという話がありますが、これは外国人材だけでなく若者にも言えることだと思います。

●松戸はNPOや市民活動の動きがとても活発な自治体であると思っていて、その中で小中高生時代にボランティアを数時間でもしたことがあるかどうかが、将来の松戸市への愛着につながると思うので、引き続き、NPO活動を支援していただきたいと思います。

●数値化のところで言うと、行政の取り組みは一般的に多目的なので、それを数量化することはすごく難しいことだと思います。数量化の限界というのは、一度市民が満足したら、その満足はなかなか次の満足につながらない、つまり維持が難しいものと考えます。そういった意味で、維持することが難しい、維持することが重要であるということや、定量化よりも定性化といった内容をどこかに書くことも大事かと思います。
市の職員が頑張っている中で指標の値だけを見ると下がっている、となると頑張っている人たちがあまりにも報われないので、定量化ではなく定性化を考え、市の頑張りに対する感謝に関する指標があると、なおいいなと思います。

●評価の部分では、アウトプットとアウトカム、インパクトということが重要と言われています。かつて業務棚卸しで行政評価を行った起源といわれる松戸市において、アウトカムがあまり重視されなくなってきているのではないか感じました。
例えば、KPIの№11の「児童家庭相談受付件数」が増えていることについて、相談しやすくなったのは良いことかもしれませんが、これは単にアウトプットの話なので、対応した結果に関するアウトカムがあるとよりいいと思います。

●松戸の魅力について、魅力がある要因として、子育て・教育・自然災害が少ないなど挙げられています。例えば、自然災害については、昔から松戸は水害に悩まされたという話はよく聞いたことがありました。この部分について、いかに解決したかという部分を見せられるようにするとさらにいいと思います。
あとは危険施設（原発、危険が伴う工場等）が少ないということも大きいことだと思います。

●未来の松戸をつくるのはやはり子ども達であるので、子ども達が活躍するような未来に関する数値目標等色々なところに出てはいますが、もう少しあってもいいと思います。
市内には４つの大学があるので、例えばスポーツ関係で大学生が小中学校に教えに行く、つまり部活動の地域移行につなげるなど、活躍する場を作っていけたらと思います。

●総合計画中間見直しの関係になりますが、基本目標４に「稼ぐ力」を入れるとのことで、事業者が自ら一生懸命仕事に取り組んで価値を高めていって収益を出すという稼ぐ力というのは今後も必要になってくると考えます。
今後の経済循環においては、多様な人材、例えば若者や女性、高齢者などが土台となると思いますので、そのあたりも施策において取り組んでいただきたいと思います。

●KPIの№124の「創業相談件数」について、全国的に見ると廃業率の方が、開業率を上回ってしまっている状況で、社長さんたちの高齢化ってこともあり、なかなか開業数が伸びないのですけども、市内においては非常に実績が上がっている状況だと思います。稼ぐ力を高めていく上でも、非常に意義がある数字なのかなと思います。
今後については、数と質を高めていくことが大事になってくると思います。例えば地域資源と連携して何か新しいビジネスを作っていくようなことも、行政と一緒に進めさせていただき

たいと思っています。

●SDGsについてですが、地域資源を活用されていたり、若者との協働、企業のイノベーションと地域の活性化を同時に実現している、ということを目指しておりますので、その意義というのは高いものだな、と考えています。
今後やっていくこととして、登録事業者数を増やすために、ニーズを把握するためにアンケート調査を行うなど、登録によってインセンティブを拡大してPRをするということを示されておりますので、この辺りも実効性を高める上で非常に意義深いものだと思います。

●数値目標・KPI はどうしてもそれ自体に引きずられてしまうケースが多いので、それが努力して達成したものなのか、手なりで達成したものなのか、という視点で見直してみるのも一つの考え方だと思います。

●数値目標・KPI については、達成したから何なのか、という話になってしまうことがあります。まずはどのようになりたいのか KGI を示して、それに対する手段として KPI を考え、達成したら KGI の達成にもつながるという建付けにするのも良いと思います。

●数値目標・KPI について、達成していないものについては問題意識を持つと思いますが、達成したものをどうするかということについても、今後見直しの中で考えた方が良いと思います。

●松戸市の人口が50万人を突破した中ではありますが、出生率の低下に関する数字を見て、今後高齢化が大きな問題になってくると改めて思いました。
その中で数値目標の「要介護3～5以外の65歳以上の高齢者の割合」について、指標だけ見ると元気な高齢者ばかりなのだなと思いますが、実際の65歳というとまだまだ介護は考えていない元気な方が多く、高齢者の中のさらに年代別だとどうなのかなと思いました。

●近隣市と比べると松戸駅周辺が少し寂しいなと思います。友人と行く祝いの席を松戸で探そうとすると、どうしても近隣市の店が出てきてしまう。その中で、駅ビルの工事やそれに伴い新たに入るテナントなどについては期待をしているところです。
駅周辺やショッピングモールについても、松戸らしさがもう少しあると選んでもらえる街になるのではないかなと思います。

●市庁舎の建替えなど建設費の高騰で入札不調が問題となっていますが、一日も早く、より良い方向に進めてほしいと思います。

●数値目標・KPI の「住み続けたいと思う人の割合」の要因として、自然災害が少ないという話がありましたが、最近はニュースでゲリラ豪雨や線状降水帯など想定以上の水害が多くなっておりますので、自然災害に対する整備の基準など今後見直しの視点を持ってもいいかな

と思います。

●少子高齢化がどうしても進む中で、どうしても達成が現実的ではない項目、例えば数値目標の出生数などについては、達成できない中でどうするかという議論になった時に答えが出ないのではないかと思いますので、思い切って見直すことも考えて整理してみても良いのではないかと思います。
また、指標の数についても多すぎるのではないかと個人的には感じますので、その部分についても整理してみても良いのではないかと思います。

●いくつかの数値目標・KPI は他の市でも公開していると思うので、分析していくうえで他市との比較があっても良いのではないかなと思います。

●資料や説明を受けた中で、松戸市の行政の方々が本当にとてもよくやってらっしゃると思った中で、もう少し成果が見やすい形になった方が、より行政の皆さんがやっていることへの、やりがいのようなところもつながるのではないかなと思いました。

●数値目標の№5の「0～14歳及び25～44歳の「転入者数-転出者数」」について、他の自治体は減っているところも有るにも関わらず、色々な施策をして増えてきている訳なので、例えば松戸が「子育てしやすいまち」ということが浸透してきていることなどがわかるような形にしてもいいのかなと思いました。

●数値目標の№7の「「子育て支援」の取組に満足している市民の割合」について、25.2%から23%に減少してきていますが、人口の母集団は増えてきている訳ですので、評価の仕方としてどうなのかなと思います。また、この部分の不満足の中身について見える化するなど検討し、上昇に持っていくことができればいいのではないかと思います。

●KPIの№2の「保育士不足により定員まで児童を受け入れられない施設数」、KPIの№3の「入所保留児童を含めた待機児童数」、KPIの№4の「幼稚園在園児童のうち預かり保育を利用している児童の割合」いずれも達成していて、この子育て支援が充実している松戸市をよく実現している部分かと思うのですが、女性が社会で活躍できることを支えるためにも、数の上昇だけではなく中身の部分を分析するといいと思います。

●KPIの№20の「市の子育て情報発信アプリのダウンロード数」についてですが、本当に子育て始めた人たちにとって不安な問題など色々なことを支えていくために重要なアプリだと思いますので、例えば母子手帳であれば全員持つわけですし、ダウンロードする割合がもう少し上がるような形になったらいいのでは思いました。

●KPIの№31の「地域の歴史文化を学ぶ講座数の割合（図書館、博物館、戸定歴史館等と連携した生涯学習講座数の割合）」について、数値が非常に低い形となっているが、講座数

を増やすだけではなく、松戸に愛着を持ってもらうために、例えば学生に愛着を持ってもらうために、まず教員に向けた取り組みについてもあっていいのではないかと思いました。まず教員たちが愛着を持たないと学生たちにそれが伝わらないので、そのような仕掛けがあっても良いのかなと思います。

●指標を考えるうえで、それをやることによって市職員のモチベーションが上がる、そのような形にした方が良いなと感じました。

●課題はやはり先延ばしにしないということが、今松戸市が置かれている状況なので、行財政改革を進めなければいけない一方、安全なインフラが持続可能でないと経済活動に影響がでてしまう部分もありますので、今、何をやるべきなのかを取捨選択しながら進まなくては行けないと思いました。

●スポーツについては非常に魅力的で、例えばウォーキングについては緑を感じるだけでも心身ともに健康になりますので、第36回「みどりの愛護」のつどいを開催した松戸市は、江戸川を渡ると緑が多いという点で、都内にも勝る貴重なブランドがあると思います。ですので、スポーツについては、健康や医療という意味でも広い視野で捉えていきたいと思います。

4　事務局からの報告

○ 事務局説明

- 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

以上